

新国立劇場 開場25周年記念公演
2022/2023 シーズンオペラ
ジャコモ・プッチーニ

ラ・ボエーム

La Bohème

2023年6月28日(水)~7月8日(土)
会場:新国立劇場オペラパレス 2023年4月30日(日)前売開始

ライブ/オンデマンド
映像配信
チケット発売!



『ラ・ボエーム』2020年公演より

パリの屋根裏に灯った恋 プッチーニ永遠の青春群像劇を大野和士指揮で上演!

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの儂い愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ『ラ・ボエーム』。甘美な旋律がとびきりロマンティックな物語を紡ぐ、永遠のラブストーリーです。パリの町を俯瞰するような栗國淳演出の舞台は豪華にして繊細で、愛と喪失の物語を映画のように描き出し、深い感動を誘います。

指揮には、名指揮者ジュゼッペ・パタネーの薫陶を受け、『ラ・ボエーム』を心から愛する芸術監督の大野和士が、新しい時代を告げるべく自ら指揮台に立ちます。新国立劇場が開場25周年にお届けする決定版『ラ・ボエーム』を、皆様でどうぞお楽しみください。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

美しくも儚い永遠のラブストーリー。日本人の“好きなオペラ”ランキング 1位の名作！

19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラ。プッチーニならではの甘美な音楽がとびきりロマンティックな物語を紡ぎ出します。

クリスマス・イブのパリ、詩人ロドルフォが独り仕事をしていると、隣人のミミが灯りの火を貰いに現れ、二人はたちまち恋に落ちる。カルチェ・ラタンで恋を謳歌する若者たち。2月の雪の日、ロドルフォは病のミミを救うため別れを決意。やがてミミが瀕死の状態です。屋根裏部屋に運び込まれる——。「冷たき手を」「私の名はミミ」の名アリアによって綴られる第1幕のロドルフォとミミの出会いのシーンは、数あるオペラのラブシーンの中でも最も美しい、決定的な名場面。華やかなパリ、カルチェ・ラタンの賑わいを描いた第2幕、雪の降りしきる中、別れを決意した恋人たちの美しくも悲しい四重唱、そして涙を禁じえないラストシーンと、見どころは枚挙にいとまがありません。パリの町をドローンで俯瞰するような栗國淳の繊細な演出は、丁寧な心理描写で若者たちの夢と挫折の世界を対比し、感動を誘います。

永遠のラブストーリーとして不動の人気を誇る『ラ・ボエーム』は、かつて「音楽の友」誌の読者アンケート投票でも、“好きなオペラ”堂々のナンバーワンを獲得しました。夢を追ひ懸命に生きる若者たちの物語は、いつの時代も感動を呼び続けています。世界中で愛される『ラ・ボエーム』は、初めてのオペラ鑑賞にもお勧めです。



新時代を告げる大野和士指揮にフレッシュな招聘キャスト、実力派国内キャストも充実！

ヒロインのミミ役にはヨーロッパで活躍し、ボローニャ歌劇場の同役も絶賛されたアレクサンドラ・マリアネリ、コケティッシュなムゼッタ役にはヴァレンティーナ・マストラランジェロと、イタリアから伸び盛りのソプラノが来日。ミミの恋人ロドルフォにはメトロポリタン歌劇場やウィーン国立歌劇場などで活躍中のスティーヴン・コストロが登場。ムゼッタの恋人マルチェッロには、歌唱、演技ともにスケールの大きな表現で圧倒する須藤慎吾、ボヘミアン仲間ショナールには駒田敏章、コッリーネにイタリアからフランチェスコ・レオーネが出演します。

指揮は、若き日に名指揮者ジュゼッペ・パタネーの薫陶を受け、「これ以上ない純愛物語」と『ラ・ボエーム』を心から愛する新国立劇場オペラ芸術監督の大野和士が、「新しい時代の狼煙を上げたい」と自ら当たります。

新国立劇場オペラ初！有料ライブ配信実施決定

『ラ・ボエーム』7月2日(日)公演で、ライブ／オンデマンド配信(有料)を実施いたします。

新国立劇場では、初の緊急事態宣言下にいち早く「巣ごもりシアター」として公演記録映像の無料配信を実施、その後2021年末からは「新国立デジタルシアター(<https://www.nntt.jac.go.jp/stream/>)」として映像配信プラットフォームを常設し、公演記録映像を配信して参りました。インターネットを通じ、日本全国、さらに世界のどこからでも、また外出が困難な方にもお気軽にご覧いただける映像配信を、『ラ・ボエーム』ではライブ配信とオンデマンド配信で行います。オペラファンの皆様にも、まだ劇場でオペラを観たことはないけれど少し興味があるという方にも、そしてお子様から熟年の方までにお薦めしたい『ラ・ボエーム』を、ぜひ映像でお楽しみください。

■配信日程

①ライブ配信日：2023年7月2日(日)14:00

※終演後7月4日(火)23:59まで見逃し配信あり。見逃し配信ではライブ配信をそのまま再生いたします。

②オンデマンド配信期間：2023年7月16日(日)10:00～8月12日(土)22:00まで

■配信チケットご購入サイト・料金

チケットぴあPIA LIVE STREAM <https://w.pia.jp/t/laboheme-pls/>

①ライブ配信チケット：3,300円(税込)(日本語字幕)

②オンデマンド配信チケット：1,980円(税込)(日本語／英語字幕付)

※PIA LIVE STREAMのご案内 <https://t.pia.jp/streaming>

TICKET PIA ENGLISH SITE(英語) <https://ticket.pia.jp/piasp/inbound/operalaboheme23eng.jsp>

①ライブ配信チケット：3,300円(税込)(英語字幕)

②オンデマンド配信チケット：1,980円(税込)(日本語／英語字幕付)

■配信チケット発売日

2023年4月30日(日)10:00～

※ライブ配信チケットは7月2日(日)14:00まで、オンデマンド配信チケットは8月12日(土)18:00まで販売

<「ラ・ボエーム」あらすじ>



【第1幕】若き詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネは、成功を夢見て、パリの屋根裏部屋で暮らしている。薪も買えず、原稿を燃やして暖を取るほど貧しいが、クリスマス・イブの今日はショナールの報酬でディナーへ出かける。ロドルフォだけ急ぎの原稿を仕上げるため部屋に残る。すると隣の部屋に住むお針子ミミが火を分けてほしいとやってくる。ミミは火をもらって帰ろうとしたとき鍵を落としたことに気づく。火の消えた間の中、2人で鍵を探すうちに手が触れ合い、恋に落ちる。



【第2幕】カフェ・モミュスで仲間と合流したロドルフォはミミを紹介する。そこへマルチェッロの元恋人ムゼッタが、新しいパトロン老人アルチンドロとやってくる。マルチェッロの気を引くためムゼッタはわざと大げさに振る舞うが、マルチェッロは無視。しかし、ついにはアルチンドロを追い払い、二人はめでたくよりを戻す。

【第3幕】雪降る夜明け。ロドルフォの態度に悩むミミは、マルチェッロの働く酒場へ向かう。店にはロドルフォがいて、マルチェッロに語り出す。自分の稼ぎでは病のミミの治療代を払えない、だからミミが離れるようわざと冷たく当たっているのだと。ミミは身を引く決意をする。マルチェッロはムゼッタの浮気を疑いけんか別れする。

【第4幕】ロドルフォとマルチェッロは元恋人に想いを馳せて仕事はかどらない。ショナールとコッリーネと共に騒いでいると、ムゼッタが瀕死のミミを連れてくる。皆で所持品を質に入れて薬代にしようとするが、時すでに遅く、ミミは、望み通りロドルフォの側で息を引き取る。

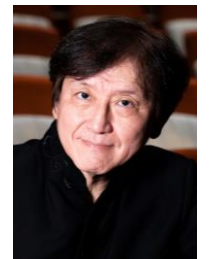


<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】大野和士

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演を重ね、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のプロダクションを指揮。新作初演にも意欲的で、数多くの世界初演を成功に導いている。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス」を獲得し、フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。新国立劇場では1998年『魔笛』、2010～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』『Super Angels スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージנגー』、22年『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』を指揮している。23年6、7月には『ラ・ボエーム』を、23/24シーズンは『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』を指揮する予定。

ONO Kazushi



【演出】栗國 淳

東京生まれローマ育ち。ローマ歌劇場演出部を経て、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニ、H.ブロックハウスの演出助手として、イタリアで活躍。97年藤原歌劇団『愛の妙薬』で演出家デビュー。『オテロ』『ファルスタッフ』『椿姫』など、意欲的な作品を日本各地で演出。海外では03年サッサリヴェルディ歌劇場『アンドレアシェニエ』『エルナーニ』、スロヴェニア国立マリポール歌劇場で『ホフマン物語』を演出。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『フィレンツェの悲劇／ジャンニスキッキ』『チェネントラ』など手がけた。エクソンモービル音楽賞奨励賞を受賞。日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所プログラムアドバイザー兼アルテシエニカ講師。

AGUNI Jun



【ミミ】アレッサンドラ・マリアネリ(ソプラノ)

イタリア生まれ。リヴォルノのマスカーニ音楽院で学んだ。2001年、15歳の時カーシナリカ国際コンクールで第2位に入賞、翌年ピサ・ヴェルディ劇場『フィガロの結婚』バルパリーナでデビューした。04年にはスピロス・アルギリス賞を受賞し、続いてフィレンツェ歌劇場に出演。その後ローマ歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、トリノ王立歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、パルマ王立歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ペーザロ・ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、ボローニャ歌劇場といったイタリアの重要な劇場、さらにブリュッセル・モネ劇場、マドリード・テアトロ・レアル、モンテカルロ歌劇場などヨーロッパの主要歌劇場にも活躍を広げている。『オルフェオとエウリディーチェ』アムール、『奥様女中』セルピーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『イタリアのトルコ人』フィオリツラ、『リゴレット』ジルダ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『ラ・ボエ

Alessandra MARIANELLI

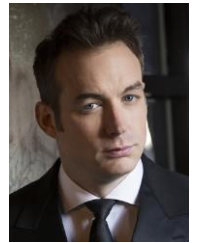


ーム』ムゼッタ、ミミ、『シモン・ボッカネグラ』アメリア、『カルメン』ミカエラなどをレパートリーとし、CD、DVD も多く発売されている。新国立劇場初登場。

【ロドルフォ】スティーヴン・コステロ(テノール)

Stephen COSTELLO

アメリカ生まれ。フィラデルフィア・アカデミー・オブ・ヴォーカル・アーツに学ぶ。2007年に26歳でメトロポリタン歌劇場のシーズン初日にデビューし、注目を集める。09年にはリチャード・タッカー賞を受賞。以後、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ザクセン州立歌劇場、シカゴ・リリック・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、ワシントン・オペラ、ザルツブルク音楽祭などの一流歌劇場、音楽祭で活躍。21/22シーズンはナポリ・サンカルロ歌劇場『ラ・ボエーム』ロドルフォ、ウィーン国立歌劇場『ファウスト』タイトルロール、『愛の妙薬』ネモリーノ、カナディアン・オペラ・カンパニー『蝶々夫人』ピンカートン、英国ロイヤルオペラ『椿姫』アルフレード、メトロポリタン歌劇場『リゴレット』マントヴァ公爵、バイエルン州立歌劇場『椿姫』アルフレードに出演。22/23シーズンはバイエルン州立歌劇場『ドン・カルロ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場『椿姫』『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『リゴレット』マントヴァ公爵、チューリヒ歌劇場『ロベルト・デヴェリユー』タイトルロールに出演。新国立劇場では19年『蝶々夫人』ピンカートンに出演した。



【マルチェッロ】須藤慎吾(バリトン)

SUDO Shingo

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第42回日伊音楽コンクール1位、オルヴィエート国際オペラコンクール2位(イタリア)などを受賞。1999年渡伊、各地の劇場にて『椿姫』ジェルモン、『リゴレット』タイトルロール、『オテロ』イアゴ、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、『トスカ』スカルピア、『カルメン』エスカミーリヨなどに出演。2006年帰国し藤原歌劇団に入団。同団で『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵などに出演。新国立劇場では19年『椿姫』ジェルモンで大成功を収めたほか、『アンドレア・シェニエ』フーキエ・タンヴィル、『蝶々夫人』シャープレス、『ルチア』エンリーコ、高校生のためのオペラ鑑賞教室・関西公演『蝶々夫人』シャープレス、高校生のためのオペラ鑑賞教室『トスカ』スカルピアなどに出演。21年には『カルメン』高校生のためのオペラ鑑賞教室公演及びびわ湖ホール公演でエスカミーリヨに出演した。22/23シーズンは『アイダ』アモナズロ、『リゴレット』モンテローネ伯爵にも出演予定。国立音楽大学非常勤講師、藤原歌劇団団員。



【ムゼッタ】ヴァレンティーナ・マストランジェロ(ソプラノ)

Valentina MASTRANGELO

イタリア生まれ。サレルノのG.マルトゥッチ音楽院に学んだ後、2013年からマリエツァ・デヴィアに師事。08年にオペラデビューし、13年には、ペーザロのロッシーニ・アカデミーに参加、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『ランスへの旅』のコレターゼ夫人役でデビューした。AsLiCoコンクールのほか、15年第5回アニタ・チェルケッティ国際コンクール、ポルトフィーノ国際コンクール、16年ハンス・ガボア・ベルヴェデーレ国際コンクールと名だたるコンクールで入賞している。トリノ王立歌劇場、ヴェネツィア・フェニーチェ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ポローニャ歌劇場、フィレンツェ五月祭音楽祭、マチェラータ音楽祭などに出演、『ラ・ボエーム』ムゼッタをはじめ、『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・エルヴィーラ、『魔笛』パミーナ、ロッシーニ及びヴェルディ『オテロ』デズデーモナ、『エウゲニ・オネーギン』タチアーナ、『トゥーランドット』リユー、『カルメン』ミカエラなどをレパートリーとしている。新国立劇場初登場。



【ショナール】駒田敏章(バリトン)

KOMADA Toshiaki

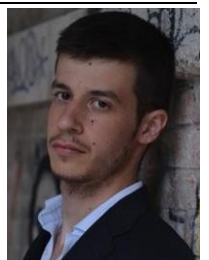
愛知教育大学を経て、東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第11期修了。研修所公演『ナクス島のアリアドネ』音楽教諭などを演じている。文化庁新進芸術家海外研修制度にてドイツ・ベルリンに留学。2012年オランダ・グローニンゲンで開催された音楽祭に『スペインの時』ラミーロ役で出演し、Labberte-Hoedemaker Awardを受賞。14年に小澤征爾音楽塾『子どもと魔法』のカヴァーキャストを務めた後、小澤征爾音楽塾とセイジ・オザワ松本フェスティバルには毎年関わる。歌曲の演奏にも力を入れ、東京・春・音楽祭ではピアニストの小菅優、居福健太郎と共にシェイクスピア作品を取り上げ演奏した。第83回日本音楽コンクール(歌曲)第1位。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』フレヴィル、『ウェルテル』ジョアンに出演している。22/23シーズンには『ジュリオ・チェザレ』クーリオ、『ボリス・ゴドゥノフ』ニキーティチにも出演。



【コッリーネ】フランチェスコ・レオーネ(バス)

Francesco LEONE

サルデーニャ島、カリアリ生まれ。カリアリのパレストリーナ音楽院でクラシックギターと声楽を学ぶ。2014年にカリアリ歌劇場にジェルメッティ指揮『トスカ』でデビュー、その後も『椿姫』『ラ・ボエーム』『フィガロの結婚』『西部の娘』『ドン・ジョヴァンニ』など数多く出演している。他にもパルマ・ヴェルディ音楽祭、ポローニャ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場、トリノ王立歌劇場、バーリ・ペトルツェッリ劇場などイタリア各地の主要劇場に次々とデビューしている。レパートリーには『ラ・ボエーム』コッリーネのほか、『ドン・ジョヴァンニ』レポレツコ、マゼット、『イル・トロヴァトーレ』フェランドなどがある。新国立劇場初登場。



新国立劇場 開場25周年記念公演
 ジャコモ・プッチーニ
ラ・ボエーム
 La Bohème / Giacomo PUCCINI
 全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

【公演日程】2023年6月28日(水)19:00／30日(金)14:00／2023年7月2日(日)14:00／5日(水)14:00／8日(土)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:24,200円・A:19,800円・B:13,200円・C:7,700円・D:4,400円・Z:1,650円

【前売開始】2023年4月30日(日)

※予定上演時間 2時間50分

指揮	大野和士	ミミ	アレッシェンドラ・マリアネリ
Conductor	ONO Kazushi	Mimi	Alessandra MARIANELLI
演出	栗國 淳	ロドルフォ	スティーヴン・コステロ
Production	AGUNI Jun	Rodolfo	Stephen COSTELLO
美術	パスクワーレ・グロッシ	マルチェッロ	須藤慎吾
Set Design	Pasquale GROSSI	Marcello	SUDO Shingo
衣裳	アレッシェンドロ・チャンマルーギ	ムゼッタ	ヴァレンティーナ・マストラングエロ
Costume Design	Alessandro CIAMMARUGHI	Musetta	Valentina MASTRANGELO
照明	笠原俊幸	シヨナール	駒田敏章
Lighting Design	KASAHARA Toshiyuki	Schaunard	KOMADA Toshiaki
舞台監督	高橋尚史	コッリーネ	フランチェスコ・レオーネ
Stage Manager	TAKAHASHI Naohito	Colline	Francesco LEONE
		ベノア	鹿野由之
		Benoit	SHIKANO Yoshiyuki
		アルチンドロ	晴 雅彦
		Alcindoro	HARE Masahiko
		パルピニョール	寺田宗永
		Parpignol	TERADA Munenaga
合唱	新国立劇場合唱団		
Chorus	New National Theatre Chorus		
児童合唱	TOKYO FM 少年合唱団		
Children Chorus	TOKYO FM Boys Choir		
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団		
Orchestra	Tokyo Philharmonic Orchestra		
芸術監督	大野和士		
Artistic Director	ONO Kazushi		

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/laboheme/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

【チケット取り扱い】チケットぴあ、イープラス、ローソンチケットほか

* 2席 1,650円:公演当日朝10時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。

* 当日学生割引(50%)、ジュニア割引(20%)、高齢者割引、障害者割引、学生割引、当日学生割引(50%)など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

映像配信のご案内:新国立デジタルシアター <https://www.nntt.jac.go.jp/stream/>

【配信チケットご購入】チケットぴあ PIA LIVE STREAM <https://w.pia.jp/t/laboheme-pls/>(日本語字幕版)

* 新型コロナウイルス感染症の影響により、公演内容や招聘スタッフ・キャストに変更が生じる場合があります。

* 新国立劇場における新型コロナウイルス感染拡大予防への取り組みと主催公演ご来場の皆様へのお願い
https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

本公演はレパートリー作品です。過去の上演の舞台写真を宣材としてご提供致します。



【1】



【2】



【3】



【4】



【5】



【6】



【7】



【8】



【9】



【10】

新国立劇場『ラ・ボエーム』2020年公演より 撮影:寺司正彦